

総合演劇雑誌

テアトロ

3
2021

● 2020年・劇評家17氏による

舞台ベストワン・ ワーストワン

◆初春のエッセイ◆ 川口啓史／なかとしお

【新連載】いまを生きる① 坂手洋二

【連載】共創する空間へ④④ 西堂行人
旅する演出家②⑥ 流山児 祥

今月選んだベストスリー 319 林 あまり

第33回テアトロ新人戯曲賞
第二次及び最終審査候補作品発表!
第34回テアトロ新人戯曲賞募集

◆戯曲◆

豊後訛り節

藤田 傳



No. 985



劇

評

フェードル、悲劇の笑い

サンライズプロモーション「フェードル」
清流劇場「逃げるヘレネ」

山形治江

ギリシャ悲劇研究の重鎮・丹下名誉教授による読解講座で知識を深めたうえで、同氏が新しい台詞を加えて補完した独自の台本を舞台化する。今回の台本はその独自性がさらに進み、『グリークス』に近づいた感がある。

物語はトロイア戦争の後日談である。駆け落ちしてトロイアに渡ったヘレネは実は神が生み出した仮像で、本物はエジプトにいた。そこへ帰国途中の夫メネラオスが難破してたどり着く。二人は一七年目の再会を果たし、エジプト脱出を図る。

コロナ感染を避けるため、俳優は全員マウスシールドを着用。また常に適度な身体的距離を保てるよう、登場人物たちはブルボン王朝風の巨大な風船ドレスや、幅広の襷襟（通称「エリザベスカラー」）付の衣装を着た。帽子も、長い竿が前後に突き出す、ピンと長く張り出す、正方形の大きな角帽（通称「博士帽」）にベールを張り巡らすなど工夫があった。夫婦の熱烈な再会シーンは衣装に妨げられ抱擁もでき

ず、竿の端と端を握って恋ダンスを踊った。ヨーロッパでは距離を保って演じられるよう感染予防衣装の開発が進んでいるというが、清流劇場の衣装（木場絵理香）は間違いなく先駆的なデザインだろう。だが邪魔さと違和感は最後まで払拭できなかった。フェイク（幻影）奪還のために起こった戦争は空しい愚行だったことがわかり、いま現に見ているものも実体ではないかもしれないという問いかけも、衣装の強烈さで薄れてしまった。

※丹下和彦台本（翻訳・補綴）／田中孝弥演出『逃げるヘレネ』（エウリピデス原作『ヘレネ』／二〇二〇年一〇月一四日～一八日／一心寺シアター倶楽

丹下和彦台本／田中孝弥演出『逃げるヘレネ』

清流劇場は、ここ数年、毎年必ずギリシャ悲劇を上演し続けている。古代